

自立活動ハンドブック

—知的障害のある児童生徒の指導のために—

Ver.2



令和元年8月
岡山県総合教育センター

— はじめに —

岡山県総合教育センターでは、特別支援学校授業づくり研修講座の中で、自立活動の講座を開講しています。その研修講座に参加された方から、「障害による学習上又は生活上の困難をどのように捉えればよいのでしょうか」「実態把握から指導目標や具体的な指導内容をどのように組み立てていくとよいのか分かりにくいです」等の声を聞くことがあります。また、初任者からは、「実態を的確に把握するためにはどのようにしたらいいのでしょうか」「目標設定の仕方はどのようにしたらいいのでしょうか」「教科別の指導や各教科等を合わせた指導の中で、自立活動をどのように扱ったらいいのでしょうか」といった質問をされることもあります。こういった現状を踏まえ、本ハンドブックは、初めて自立活動の指導に当たられる方を念頭に置いて分かりやすく内容を構成するようにしました。もちろん、経験のある方にも活用していただきたいと考えています。

また、平成30年の特別支援学校学習指導要領の改訂では、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）が示されました。それに伴って、本ハンドブックにおいても、知的障害教育における流れの例を検討し、手順シートとして示しました。

このハンドブックが知的障害のある児童生徒に対する自立活動の指導を適切に、効果的に進めていくための一助となれば幸いです。

— ハンドブックの活用に当たって —

このハンドブックは、自立活動における個別の指導計画を適切に作成するための手順について解説した『手順編』と、それに沿って作成した計画による指導の実際を紹介した『実践編』で構成しています。ニーズや経験に応じて、必要なページを開いて御活用ください。

『手順編』では、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（以下、「自立活動編」という。）に示されている自立活動の指導計画の作成と内容の取扱いを基本とし、指導目標や指導内容を導き出すための考え方の一例を示しています。各学校で使われている様式等を基本に、必要な箇所を参考にしてください。

『実践編』では、知的障害特別支援学校、知的障害特別支援学級の自立活動の時間における指導や教科等と関連付けた指導等の授業実践を幅広く紹介しています。自分の所属する校種、学部の授業はもちろん、他校種、他学部の実践も御覧いただくと参考になるとと思います。



目次

*はじめに

*ハンドブックの活用に当たって

<手順編>	2
*自立活動を考える…その前に！	3
1 自立活動について	4
2 自立活動の教育課程上の位置付け	5
3 自立活動の目標と内容、取扱い	6
4 自立活動における個別の指導計画の作成	7
*自立活動の指導「手順シート」	8
(1) 実態把握（A児の情報収集）	10
(2) 課題の整理	12
(3) 指導目標の設定	14
(4) 項目の選定、項目と項目を関連付ける際のポイント、 具体的な指導内容の設定	16
(5) 指導場面の設定	23
5 自立活動の評価について	24

<実践編>

1 特別支援学級実践例	
*特別支援学級実践例を読むに当たって	
(1) 小学校知的障害特別支援学級B児のケース	
(2) 中学校知的障害特別支援学級生徒Cのケース	
*実践を振り返って	
2 特別支援学校実践例	
(1) 小学部D児のケース	
ア 児童の実態把握と個別の指導計画	
イ 自立活動の時間における指導	
ウ 各教科等における指導	
エ 各教科等を合わせた指導	
(2) 高等部生徒Eのケース	
ア 生徒の実態把握と個別の指導計画	
イ 各教科等における指導	
ウ 各教科等を合わせた指導	
*実践を振り返って	

*おわりに

*引用・参考文献

< 手順編 >



* 自立活動について考える…その前に！

そもそも「自立活動」って、何だと思いませんか？



ある特別支援学級の教師

買い物に行ったり、一人で洗濯したり、料理を作ったり、畑で野菜を育てたりする活動なんじゃないかなあ…。要するに、将来、自立した生活を送ることができるようにするための活動じゃないのかな…???

それとも、もしかすると、教師がいなくても、子供自身で自学自習ができるようにするための指導かな…？“自立”した“活動”だから、例えば、学習メニューに従って、自分でプリント学習をしていくようなもの…???



ある特別支援学校の教師

子供たちと日々過ごしていると、私が指導に困ることがたくさんあるわ。自立活動では、それをなくしていくようにするイメージでいいのかな…???

それから、こんな話を聞いたこともあるわ。自立活動は、子供たちみんなに発達検査を実施して、検査結果の低い項目を引き上げていくように指導するらしい…。それでいいのかな…???



二人とも悩んでいるようですね。でも、残念ながら、二人が話してくれたイメージは、文部科学省が示している自立活動の本質とは異なっているようです。

これから、一緒に自立活動の趣旨を踏まえながら、指導のプロセスを確認していきましょう。



1 自立活動について

小・中学校等の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められており、教育内容は、発達の段階等に即して選定されたものが配列されています。それらを順に教育することにより人間として調和のとれた育成が期待されています。

一方、障害のある児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、小・中学校等の児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。

個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となるため、特別支援学校においては、小・中学校等に準じた各教科等や知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等のほかに、「自立活動」という指導領域を設定し、その指導を行うことによって、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指しているのです。

自立活動編を手元において併せて読んでみてくださいね。



なるほど、子供が日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するという視点が大切なのですね。

自立活動が意味する「自立」とは、児童生徒が障害の状態や発達の段階に応じて、自分の力を可能な限り発揮し、主体的によりよく生きていこうとすることなのです。そして、障害によって生じるつまずきや困難を軽減しようとしたり、障害があることを受け止めたりするために必要な知識や技能を学んだり、態度や習慣を身に付けたりするための活動なのです。



そうか！自立活動の指導は、一人で自立した生活ができるようになるための技能や一人で自主学習ができるための態度を身に付けることを直接的なねらいとする指導ではないのですね。

自立活動は、一人一人の児童生徒の実態に対応した活動であり、よりよく生きていくことを目指した主体的な取り組みを促す教育活動なのです。

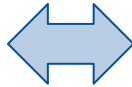


2 自立活動の教育課程上の位置付け

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域です

〔学校の教育活動全体を通して適切に行う〕

自立活動の時間における指導



密
接
な
関
連

時間における指導以外の自立活動の指導

各教科等での指導

- ・教科の目標を達成するために、個々の困難に配慮する。
- ・個々の課題を明確にした支援が必要になる。

各教科等を合わせた指導

- ・学習場面や生活場面で自立活動の指導を行う。
- ・個々の課題を明確にして、どの場面でどのような配慮や指導をするのかについて具体的な計画が必要になる。

自立活動は、障害のある児童生徒の教育において、教育課程上重要な位置を占めています。

自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければなりません。

特別支援学級でも

小学校又は中学校の特別支援学級や通級による指導においては、児童生徒一人一人の障害の状態を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではなく、特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別な教育課程を編成することが必要な場合があります。

学校教育法施行規則第138条、同第140条の規定を受けて、小学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説の総則編では「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。」と示されています。

特別支援学級でも同じように障害による学習上、生活上の困難に対応するためには自立活動の指導が必要なのですよ。



3 自立活動の目標と内容、取扱い

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達のための基盤を培う。

特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の内容

自立活動の「内容」は、6区分27項目で示されており、その中から個々の児童生徒の障害の状態や発達の程度に応じて必要な項目を選定し、関連付けて具体的な指導内容を設定します。自立活動の「内容」の全てを指導するというものではありません。

自立活動の内容の考え方

自立活動の「内容」は、「人間としての基本的な行動を遂行するための要素」と「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」から構成されています。

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事
- (5) 健康状態の維持・改善に関する事

2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
- (4) 集団への参加の基礎に関する事

4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4) 身体の移動能力に関する事
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2) 言語の受容と表出に関する事
- (3) 言語の形成と活用に関する事
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

「自立活動編」には、それぞれ項目についての説明と具体的な指導内容例が示されています。



4 自立活動における個別の指導計画の作成

自立活動における個別の指導計画を考えるプロセス

自立活動における個別の指導計画は次の手順で作成します。

- ①「実態把握」
- ②「指導すべき課題の抽出」
- ③「指導目標（ねらい）の設定」
- ④「具体的な指導内容の設定」

右に示している「自立活動編」では、自立活動における個別の指導計画作成の手順について105ページから説明されています。

また、個々の児童生徒の「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」に至るまでの流れ（流れ図）についても13事例が示されています。



文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』



自立活動は大切な指導だということは分かりました。でも、何をどのように組み立てて指導すればよいのでしょうか？

実態把握から目標はどのように設定すればいいの？

長期目標と短期目標の関係はどうなっているの？

項目の選定はどう考えるの？

項目の関連付けもよく分からないんだけど？

具体的な指導内容は、どのように指導したらいいの？

自立活動における個別の指導計画を作成する際に、どのように考えるとよいのか次のページに示す自立活動の指導「手順シート」を使って一緒に考えていくことにしましょう。

自立活動における個別の指導計画を考えるための「手順シート」は、「自立活動編」28ページに示されている流れ図を基にしています。

自立活動の指導「手順シート」は、どのように自立活動の指導計画を作成していけばよいのかという考え方を示したものです。

* 自立活動の指導「手順シート」

実態把握	障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ・困難、学習の習得状況、本人のニーズ等 ※（ ）内は、自立活動の区分
	その他の情報（保護者や担任等のニーズ、将来期待する姿など）

課題の整理	課題の抽出
	↓
	課題関連の検討と中心的課題の特定

長期目標 短期目標の設定	
-----------------	--

項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

項目と項目を関連付ける際のポイント

具体的な指導内容の設定	ア	イ	ウ	・・・
-------------	---	---	---	-----

指導場面の選定	ア	イ	ウ	・・・
---------	---	---	---	-----

短期目標の評価	
---------	--

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ・困難、学習の習得状況、本人のニーズ等 ※ () 内は、自立活動の区分

実態把握

ここで大切なのは、対象となる子供の全体像を捉えることです。自立活動の区分など、いろいろな視点から見ることで、情報が偏らないようにします。
 学習の習得状況では、これまでの目標と達成状況（身に付いたこと、支援があればできることなど）をチェックします。

その他の情報（保護者や担任等のニーズ、将来期待する姿など）

保護者や関係機関からの情報も参考にします。
 将来の学びの場や生活の場を想定しながら、「どのような力」を「どこまで」育むことができるのかを考えておくと、指導に継続性をもたせることができます。

課題の整理

課題の抽出



課題関連の検討と中心的課題の特定

ここでは、中心的な課題を導き出した過程を整理して記述します。なぜそれを中心的課題と考えたかの判断根拠を示すことで、教師間の指導・支援の意図などの共通理解を図りやすくなります。

【課題を整理する視点①】

- ◆課題の背景要因 : なぜそのような行動になるのか
- ◆原因と結果 : (課題A) だから、(課題B) になる
- ◆相互に関連し合う : 課題Aと課題Bが原因にも結果にもなる
- ◆発達や指導の順序性 : ~の前に~の指導をする

【課題を整理する視点②】

- ◆適時性 : 今、指導することが適切な時期か
- ◆必要性 : 現在の生活だけでなく、将来の生活も見通して、今、必要なことか
- ◆実現性 : 予定の指導期間内で達成できるか などの視点から検討して記述します。

長期目標
短期目標

項目の選定

項目と項目を関連付ける際のポイント

それぞれの指導内容で、どのような力を育てていくのかをはっきりさせることで、指導目標と指導内容とのつながりが、より明確になります。

「(□□な力を育てる) ために、○○(区分)の項目○と△△(区分)の項目△とを関連付けて指導する」というように記述します。

具体的な指導内容の設定

ア

イ

ウ

...

指導場面の選定

ア

自立活動は、学校の教育活動全体を通じて行うことが基本となります。この欄には、その中でも優先度の高い指導場面を記入することで、複数の教員で共通理解を図り、一貫した指導を行うための一助とします。

(1) 実態把握 (A児の情報収集)

ア：プロフィール表を活用

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

子供の実態を把握しましょう。障害の状態は一人一人違います。自立活動では、一人一人の障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目標にしています。子供が自ら主体的に活動に取り組むことによって、知識や技能、態度を身に付けていくことを重要視しているのです。実態把握に基づいて設定する目標や具体的な指導内容、指導方法は、必然的に一人一人異なってきます。

次のようなプロフィール表を活用して実態把握をする方法もあります。



プロフィール表

氏名	A児	学部・学年	小学部第3学年	記入者	〇〇 〇〇
生年月日	平成〇年〇月〇日	障害・疾患名	知的障害	備考	
生育歴					
項目	内容				
①基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> かぶるタイプの上着の着脱では、脱ぎ始めや着始めのときに裾を持つようにすると取り组もうとする。 ボタンは半分程度かけておいたりはずしておいたりすると自分で最後までできる。 靴下はつま先を入れると自分ではくことができる。 排泄は自立している。 水道の蛇口をひねって、水を出し、手を洗うことができる。 食事では食べ物を一度にたくさん口に入れてしまうので、一度に口に入れる量を調整している。 スプーンで食べている。 牛乳が苦手で、ランチルームの外に流してしまうことがある。 				
②人や物との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 特定の教師からの働きかけは受け入れることができる。 友達のしていることが気になり、関わろうとすることもある。 友達の持っているおもちゃを取ったり、服を引っ張ったりしてトラブルになることが多い。 周囲の人や物に興味に移りやすく注意が集中しにくい。 一人で床にいろいろな物を並べて遊ぶことが多い。 				
③心理的状態	<ul style="list-style-type: none"> 機嫌のよいときは声を出して笑う。 毎日繰り返して行われる活動には落ち着いて取り組むことができる。 体調が悪いときや欲しい物が手に入らないとき等には自分の手をかんだり、頭をたいたりする。 大きな音や友達の泣き声が苦手で、耳をふさいだり飛び出したりすることがある。 				
④コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 「靴を脱ぐ」「手を洗う」等、日常的で簡単な指示は理解して行動できる。 意に沿わない指示や分かりにくい説明をされたときには大声を出して怒ることがある。 困ったことがあっても助けを求めることができない。 混乱すると大きな声で叫んだり泣いたりする。 				
⑤健康状態	<ul style="list-style-type: none"> 健康である。 暑さや寒さは苦手で、活動に取り組みにくいことがある。 				

項目	内容
⑥身体機能	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のページを1枚ずつめくることができる。 ・三輪車をこぐことができる。 ・椅子に座っていても時間が長くなると姿勢が崩れてくる。 ・シールを貼ったり、ビーズを通したりするなどの指先を使った作業は苦手である。 ・高さ20cmくらいのハードルをまたぎ越すことができる。
⑦知的機能 (認知、言語、 記憶、判断、 推理、思考、 想像等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が指さすところを注視することができる。 ・注意が集中しているときは絵と実物のマッチングができつつある。 ・教師のする簡単な動作を見て、同じような動作をすることができる。 ・教室の中の物の位置はよく覚えている。 ・自分の物と友達のものとの区別ができる。 ・活動への見通しがもてないと不安になる。
⑧興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・TVアニメのビデオやキャラクターのグッズを好む。 ・絵本やパネルシアターは好きで集中して見ることができる。 ・写真に興味をもち始め、見ていることがある。 ・好きな歌のCDを聞くことが好きである。
⑨諸検査	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージ評価 (LDT-R) ステージII (RO, O, O)
⑩本人の願い	
⑪保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・健康でいてほしい。 ・自傷行為がなくなってほしい。 ・したいことや欲しい物等を伝えることができるようになってほしい。 ・一人でできることが少しずつ増えてほしい。
⑫その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の送迎で通学している。 ・学校の行事に父親や兄弟も参加する。

イ：付箋紙を活用

付箋紙を活用して実態把握をする方法もあります。

大きな音や友達の泣き声で耳をふさいだり飛び出したりしているよ。

困ったことがあっても助けを求められなくて困ってるよね。
他にも、欲しい物があると、友達が遊んでいても取っちゃうことがあるよね。



暑さや寒さは苦手で、活動に取り組みにくいことがあるわね。

毎日繰り返している活動は落ち着いて取り組むことができるわ。

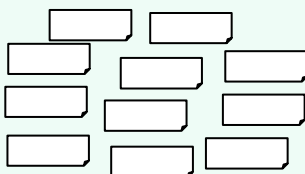
特定の教師からの働きかけは受け入れることができるよ。

絵と実物のマッチングができつつある

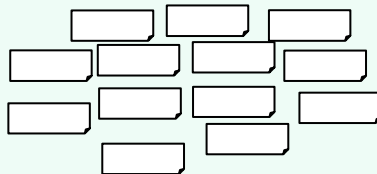
自分の気持ちが伝えられないとき自傷行為がある

混乱すると大きな声で泣き叫ぶ

学習面



生活面



学習面や生活面の長所やよさ、困難さの視点から対象児の情報を付箋紙に書き出してみましよう。



(2) 課題の整理

① 課題の抽出

プロフィール表や付箋紙を活用して把握した実態の中から、学習上、生活上の困難さの視点から課題（A～L）を抜粋します。 ※（ ）内は、自立活動の区分を表す。

A. 食事では一度にたくさん食べ物を口に入れてしまう。（健）

B. 牛乳が苦手で、ランチルームの外に流してしまう。（環）

C. 友達の持っているおもちゃを取ったり、服を引っ張ったりしてトラブルになることが多い。（人・コ）

D. 体調が悪いときや欲しい物が手に入らないとき等には、自分の手を噛んだり、頭をたたいたりする。（心・コ）

E. 周囲の人や物に興味に移りやすく、注意が集中しにくい。（心・環）

F. 大きな音や友達の泣き声が苦手で、耳をふさいだり飛び出したりすることがある。（心・環）

G. 意に沿わない指示や分かりにくい説明をされたときには、大声を出して怒ることがある。（コ）

H. 困ったことがあっても助けを求めることができない。（心・コ）

I. 混乱すると、大きな声で叫んだり泣いたりする。（心・環・コ）

J. 暑さや寒さは苦手で、活動に取り組みにくいことがある。（健・環）

K. 椅子に座っていても時間が長くなると、姿勢が崩れてくる。（健・身）

L. シールを貼ったり、ビーズを通したりするなどの指先を使った作業は苦手である。（身）

M. 活動への見通しがもてないと、不安になる。（心・環）

自立活動	障害の状態、要法や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ・得意、学習の困難状況、本人のニーズ等 ※（ ）内は、自立活動の区分															
	その他の情報（保護者や担任等のニーズ、将来期待する姿など）															
課題抽出	課題の抽出															
	↓ 課題の整理、中心的課題の特定															
自立活動 個別目標の設定	<table border="1"> <tr> <th>項目の決定</th> <th>健康の保持</th> <th>心身の安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>学習の促進</th> <th>身体活動性</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	項目の決定	健康の保持	心身の安定	人間関係の形成	学習の促進	身体活動性	コミュニケーション								項目と項目を関連付ける際のポイント
	項目の決定	健康の保持	心身の安定	人間関係の形成	学習の促進	身体活動性	コミュニケーション									
	具体的な指導内容の設定	<table border="1"> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> </table>	ア	イ	ウ	エ	オ									
	ア	イ	ウ	エ	オ											
指導方法の設定	<table border="1"> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> </table>	ア	イ	ウ	エ	オ										
ア	イ	ウ	エ	オ												
評価目標の設定																

この中から、課題を抽出する際の視点は、

- ◆本人が困っているものを選ぶ
- ◆ニーズを反映しているものを選ぶ
- ◆類似している課題をまとめる などが考えられます。

A児に関しては、

- ◇A児の実態から自立活動の指導よりも環境整備等の配慮をより強く要するものという視点から、課題A、B、F、Jを
- ◇類似した課題であるという視点から課題Iを除外しました。



※自立活動の指導「手順シート」（8ページ）

課題の抽出

- C. 友達の持っているおもちゃを取ったり、服を引っ張ったりしてトラブルになることが多い。
- D. 体調が悪いときや欲しい物が手に入らないとき等には、自分の手を噛んだり、頭をたたいたりする。
- E. 周囲の人や物に興味に移りやすく、注意が集中しにくい。
- G. 意に沿わない指示や分かりにくい説明をされたときには、大声を出して怒ることがある。
- H. 困ったことがあっても助けを求めることができない。
- K. 椅子に座っていても時間が長くなると、姿勢が崩れてくる。
- L. シールを貼ったり、ビーズを通したりするなどの指先を使った作業は苦手である。
- M. 活動への見通しがもてないと、不安になる。

(2) 課題の整理 ② 課題関連の検討と中心的課題の特定

①で抽出した課題の関連を検討していきます。
ここでは、背景要因の視点から、課題を整理しました。

【状況把握の困難さ】

M. 活動への見通しがも
てないと、不安になる。
(心・環)

C. 友達の持っているおもちゃ
を取ったり、服を引っ張った
りしてトラブルになることが
多い。(人・コ)

G. 意に沿わない指示や分かり
にくい説明をされたときには、
大声を出して怒ることがある。
(心・コ)

H. 困ったことがあっても助け
を求めることができない
(人・コ)

E. 周囲の人や物に興味
が移りやすく、注意が
集中しにくい。
(心・環)

【注意集中の困難さ】

【身体の動きの困難さ】

K. 椅子に座っていても時間が長くな
ると、姿勢が崩れてくる。(健・身)

L. シールを貼ったり、ビーズを通し
たりするなどの指先を使った作業は苦手
である。(身)

【意思伝達の困難さ】

D. 体調が悪いときや欲しい
物が手に入らないとき等
には、自分の手を噛んだり、
頭をたいたりする。
(心・コ)

【課題を整理する視点①】

- ◆ 課題の背景要因
- ◆ 原因と結果
- ◆ 相互に関連し合う
- ◆ 発達や指導の順序性

【課題を整理する視点②】

- ◆ 適時性 ◆ 必要性 ◆ 実現性

これらの視点を参考にして、なぜその課題を中心
的な課題と考えたのかを説明できることが大切です。



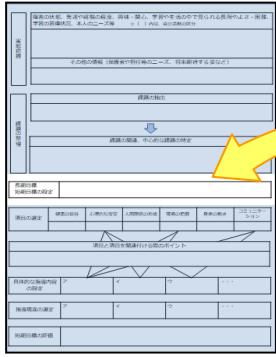
課題関連の検討と中心的課題の特定

A児は、分からないことがあったり、意に沿わないことがあったりすると混乱したり、不安になったりしている(G、M、I)ことから、「状況把握」に課題があるのではないかと推測できる。また、自分の思いを伝えるために、自傷、おもちゃを取る、服を引っ張る、大声を出す、泣くなどの行動を取っている(C、D、H、I)ことから、「意思伝達」にも課題があるのではないかと考えられる。さらに、座る姿勢が崩れやすかったり、指先を使った作業が苦手であったりする(K、L)ことから「身体の動き」の課題、「注意集中」が難しい(E)という課題も見られる。

なお、「状況把握」「注意集中」の課題に対しては、プロフィールに「毎日繰り返して行われる活動には落ち着いて取り組むことができる」「日常的で簡単な指示は理解して行動できる」とあることから、できるだけA児にとって分かりやすいような状況を整えることで、改善されるのではないかと考えられる。「身体の動き」の課題については、現時点ではA児の行動上の問題に直接つながっていないため、A児のニーズ、必要性がともに低いのではないかと考える。

これらの分析に加えて、適時性、必要性という視点を加味してA児の現在の課題を見ると、生活的不安定さの原因と推察される自分の思いをうまく表現できない「意思伝達」に関する課題が中心的な課題と考えられる。自分の思いをうまく伝える方法を身に付けることで、自傷や友達とのトラブルが減り、生活の質が向上するのではないかと考える。

② 短期目標の設定



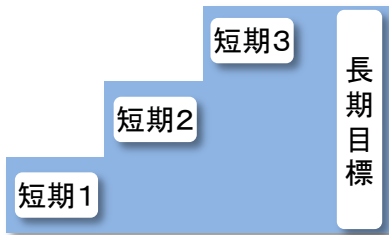
※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

長期目標を達成するためには、個々の子供の実態に即して、必要な指導内容を段階的、系統的に取り上げることが大切です。つまり、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望があることが必要です。

長期目標と短期目標との関係

段階的な短期目標の設定

場面や支援の条件等のレベルを段階的に高めていくように短期目標を設定することによって、長期目標が達成されていくイメージ

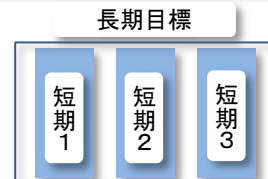


下のようなタイプの短期目標もあります。



並列的な短期目標の設定

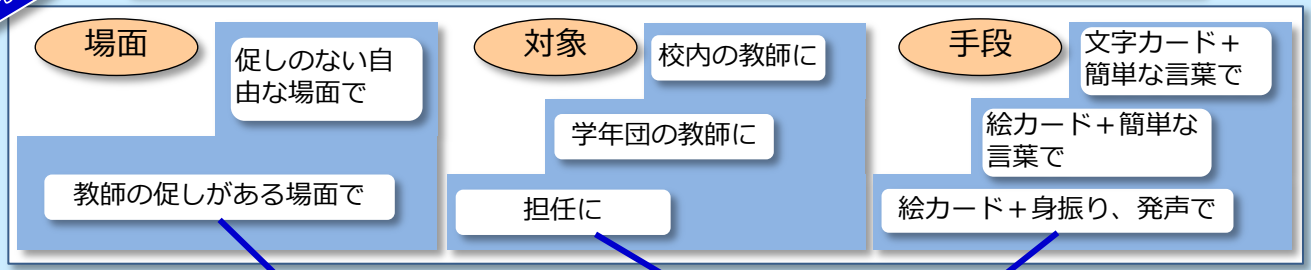
一定期間内で複数の設定した短期目標を、いくつか達成することによって、その結果として長期目標が達成されていくイメージ



う〜ん…。A児の場合はどうなるかな…。一年後の姿に段階的に近づくためには、例えば、こんなイメージかな。

長期目標：周りの人に、カードを活用して、自分の要求を伝えることができる。

例えば…



短期目標

教師の促しがある場面で、担任に、絵カードや身振り等で自分の欲しいものやしてほしいことの要求を伝えることができる。

(4) 項目の選定、項目と項目を関連付ける際のポイント、具体的な指導内容の設定

次は、短期目標を達成するために、どのような具体的な指導内容が必要かを考えます。

短期目標の設定まではできたけれど、具体的な指導内容を考えるのは、なかなか難しいです。それを導き出すためには、どのように考えたらいいのでしょうか？

そうですね。初めは難しいと思います。その解決のため、具体的な指導内容を検討するときの視点があるのです。

具体的な指導内容を考えるときの参考となる視点が、自立活動の内容である6区分27項目です。自立活動編に示されている具体的な指導内容例や他の項目との関連例を読みながら、短期目標を達成するために必要な項目を選びましょう。

項目を選定する際には、もう一度、困難の背景にある要因を確認しておきましょう。

A児の短期目標は、「教師の促しがある場面で、担任に、絵カードや身振り等で自分の欲しいものやしてほしいことの要求を伝えることができる」でした。そして、言動や態度の荒れや情緒の不安定さの背景にある要因が、“意思伝達の困難さ”であると予想されました。

そのため、6区分の中で中心となる区分は、やりとりに関わる「コミュニケーション」と、対人関係に関わる「人間関係の形成」だと考えます。また、それらに関係して、情緒に関わる「心理的な安定」と、認知の特性に関わる「環境の把握」も挙げておく必要があると思います。

解説を読みながら、区分の下にある項目にもチェック（■）をしてみました。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目	<input type="checkbox"/> (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関すること	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関すること	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関すること	<input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関すること
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること	<input type="checkbox"/> (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	<input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関すること	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関すること	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関すること
	<input type="checkbox"/> (4)障害の特性の理解に関すること		<input type="checkbox"/> (4)集団への参加に関すること	<input type="checkbox"/> (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
				<input checked="" type="checkbox"/> (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	<input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

教科等の内容と違い、ここに示す全ての区分項目を扱ったり、順番に指導したりするものではありません。まずは、具体的な指導内容を考える際の中核となる項目を選び、次に、それに関係しそうな他の項目も併せて選んでいきましょう。

選定した項目について、「自立活動編」に書かれている内容を確認しておきましょう。そうすることで、具体的な指導内容が思い浮かびやすくなります。



分かりました！え〜と、今回チェックを入れたのは、次の区分・項目だったわ。



2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

4 環境の把握

- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

選定したこれらの項目の関係箇所を、解説から書き出してみます。

2 心理的な安定

(1) 情緒の安定に関すること

- ① この項目について
「『(1)情緒の安定に関すること。』は、情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすることを意味している。」
- ② 具体的指導内容例と留意点
「ADHDのある幼児児童生徒の場合、自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなることもある。このような場合には、自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、いったんその場を離れて深呼吸するなどの方法があることを教え、それらを実際に行うことができるように指導することが大切である。」



なるほど。言動が荒れた後の気持ちの収め方を指導していくという発想はありませんでした。A児にとってこれらも指導の視点として大切だと思います。

(2) 状況の理解と変化への対応に関すること

- ① この項目について
「『(2)状況の理解と変化への対応に関すること。』は、場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けることを意味している。」
- ② 具体的指導内容例と留意点
「場所や場面が変化することにより、心理的に圧迫を受けて適切な行動ができなくなる幼児児童生徒の場合、教師と一緒に活動しながら徐々に慣れるよう指導することが必要である。…
自閉症のある幼児児童生徒の場合、日々の日課と異なる学校行事や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある。このような場合には、予定されているスケジュールや予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導をすることが大切である。」



確かにA児は、場所や場面の変化に弱いと思います。まずは、場面と人を固定して、カードの使い方に慣れる成功経験を積むことが大切だということですね。

3 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

① この項目について

「『(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。』は、人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすることを意味している。」

② 具体的指導内容例と留意点

「人に対する基本的な信頼感は、乳幼児期の親子の愛着関係の形成を通してはぐくまれ、成長に伴い様々な人との相互作用を通して対象を広げていく。障害のある幼児児童生徒は、障害による様々な要因から、基本的な信頼感の形成が難しい場合がある。…

また、他者とのかかわりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない自閉症のある幼児児童生徒の場合、身近な教師とのかかわりから、少しずつ、教師との安定した関係を形成することが大切である。そして、やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかわり合う素地を作ることが重要である。その後、やりとりの方法を少しずつ増やしていくが、その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を用いて分かりやすくすることも大切である。」



なるほど。A児の人に対する基本的な信頼感は弱いと思います。まずは、身近な人と一緒にいることで安心したり、やりとりすることを楽しいと感じたりする経験を十分に積むことが大切なんですね。それを基盤として、要求表現の方法の獲得に取り組んでいかなきゃいけないんですね。

4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

① この項目について

「『(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。』は、障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにすることを意味している。」

② 具体的指導内容例と留意点

「これらの幼児児童生徒は、認知面において不得意なことがある一方で得意な方法をもっていることも多い。例えば、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れている場合がある。…したがって、幼児児童生徒一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫し、不得意なことを少しずつ改善できるよう指導するとともに、得意な方法を積極的に活用するよう指導することも大切である。」



A児はここに書いてあるとおり、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れています。絵カードを活用しての要求表現の指導を取り入れていけばよいということですね。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

① この項目について

「『(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。』は、ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすることを意味している。」

② 具体的指導内容例と留意点

「知的障害のある幼児児童生徒の場合、概念を形成する過程で、必要な視覚情報に注目することが難しかったり、読み取りや理解に時間がかかったりすることがある。そこで、興味・関心のあることや生活上の場面を取り上げ、実物や写真などを使って見たり読んだり、理解したりすることで、確実に概念の形成につなげていくよう指導することが大切である。」



でも、絵カードを活用できるようになるためには、その基礎となる概念を育てていく必要があるということかな。そもそも、実物と絵カードのマッチングができない段階で、要求表現の手段になるはずがないですね。

6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

- ① この項目について
「『(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。』は、幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることを意味している。」
- ② 具体的指導内容例と留意点
「自閉症のある幼児児童生徒の場合、興味のある物を手にしたいという欲求が勝り、所有者のことを確認しないまま、他者の物を使ったり、他者が使っている物を無理に手に入れようしたりすることがある。また、他の人の手を取って、その人に自分が欲しい物を取ってもらおうとすることも。このような状態に対しては、周囲の者はそれらの行動が意思の表出や要求を伝達しようとした行為であることを理解するとともに、幼児児童生徒がより望ましい方法で意思や要求を伝えることができるよう指導することが大切である。」



まず、A児の行動に表現されている意思や要求を私たちが理解することが大切なんです。それとともに、その表現方法を望ましい方法に導いていく必要があるんです。今は、A児の表現は決して望ましいものとはいえません。ただし、方法だけを無理やり指導するのではなく、伝わったという成功経験の積み重ねこそが方法の定着につながるんです。

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

- ① この項目について
「『(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。』は、話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすることを意味している。」
- ② 具体的指導内容例と留意点
「近年、科学技術の進歩等により、様々なコミュニケーション手段が開発されてきている。そこで、幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて、適切なコミュニケーション手段を身に付け、それを選択・活用して、それぞれの自立と社会参加を一層促すことが重要である。…
自閉症の幼児児童生徒で、言葉でのコミュニケーションが困難な場合、まず、自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるようにしたりすることが大切である。」



A児には、話し言葉を補うために、カード等を活用して、ぜひ、要求が伝わった喜びを味わってほしいです。そして、自分から人と関わろうという意欲をどんどん高めてもらいたいです。

どうですか。一つ一つの項目について、解説を読み込んでいくと、具体的な指導内容がイメージしやすくなるでしょう。



はい、そう思います！



今度は、それぞれの項目に関連のある内容を結び付けながら、さらに具体的な指導内容を考えてみましょう。

分かりました！じゃあ、前のページの項目に、便宜上、㊦～㊧の記号を振って、考えやすくしてみます。



心理的な安定

(1) 情緒の安定に関すること

項目㉞



なるほど。言動が荒れた後の気持ちの収め方を指導していくという発想はありませんでした。A児にとってこれらも指導の視点として大切だと思います。

(2) 状況の理解と変化への対応に関すること

項目㉟



確かにA児は場所や場面の変化に弱いと思います。まずは、場面と人を固定してから、カードの使い方に慣れて、成功経験を積むことが大切だということですね。

人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

項目㊱



なるほど。A児の人に対する基本的な信頼感は弱いと思います。まずは、身近な人と一緒にいることで安心したり、やりとりすることを楽しいと感じたりする経験を十分に積むことが大切なんですね。それを基盤として、要求表現の方法の獲得に取り組んでいかなければいけないんですね。

環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

項目㊲



A児はここに書いてあるとおり、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れています。絵カードを活用しての要求表現の指導を取り入れていけばよいということですよ。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

項目㊳



でも、絵カードを活用できるようになるためには、その基礎となる概念を育てていく必要があるということかな。そもそも、実物と絵カードのマッチングができない段階で、要求表現の手段になるはずがないですよ。

コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

項目㊴



まず、A児の行動に表現されている意思や要求を私たちが理解することが大切なんですね。それとともに、その表現方法を望ましい方法に導いていくことを考えていく必要があるんですね。今は、A児の表現は決して望ましいものとはいえません。ただし、方法だけを無理やり指導するのではなく、伝わったという成功経験の積み重ねこそが方法の定着につながるんですね。

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

項目㊵



A児には、話し言葉を補うために、カード等を活用して、ぜひ、要求が伝わった喜びを味わってほしいです。そして、自分から人と関わろうという意欲をどんどん高めていてもらいたいです。



項目㉗と㉘はどちらもA児の情緒の安定に関わる項目だと思います。そこで、項目㉗と㉘を関連付けながら、A児が人に対する安心感ややりとりの楽しさを感じて、人に対する信頼の気持ちをもてるようにしたいです。併せて、情緒の安定を図ることもねらいたいです。でも、言動が荒れることもまだまだあるように思います。そのときの気持ちの収め方も含めて、具体的な指導内容が一つまとまりそうです。

好きな手遊びやふれあい遊びを通して、基本的な人との信頼関係を育てるとともに、情緒の安定を図りたい。



項目㉙は得意な認知の活用に関すること、項目㉚は概念形成に関すること、項目㉛は適切なコミュニケーション手段を身に付けていくことに関する事です。これらの項目を関連付けながら、A児の得意な視覚情報を活用し、概念形成を図ることでマッチングの力を高め、絵カードによる表出手段を習熟させていきたいです。そうすることで、自分の意思を適切に伝える基礎的な力を育てたいです。このように考えると、絵カードの習熟に関する指導内容が一つまとまりそうです。

絵カードを活用する前提となる、具体物と絵カードのマッチングの力を育てていきたい。



項目㉜は場面の固定化に関すること、項目㉝は、例えば、教師との安定した関係に基づいてやりとりの方法を定着させていくこと、項目㉞と㉟はコミュニケーションの基礎的能力や手段に関する事です。これらを関連付けながら、場面を要求場面と特定した上で、絵カードという手段での意思表示を定着させるという具体的な指導内容が考えられそうです。その際には、伝わったという成功経験を積み重ねることが大切なんですよね。

要求場面でタイミングよく、適切に絵カードを使えるようにしたい。

項目ア・イ

項目ウ

項目エ・オ

項目カ・キ

好きな手遊びやふれあい遊びを通して、基本的な人との信頼関係を育てるとともに、情緒の安定を図りたい。

絵カードを活用する前提となる、具体物と絵カードのマッチングの力を育てていきたい。

要求場面でタイミングよく、適切に絵カードを使えるようにしたい。

だから、具体的な指導内容は・・・

・好きな手遊びやふれあい遊びを通して教師とやりとりする

・具体物と絵カードのマッチングをする

・絵カードの使い方が分かり、要求場面で絵カードを選んで渡す

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)



考えたことを自立活動の指導「手順シート」に書いてみるとこんなふうになるのかしら。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目の選定		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(1)他者とのかわりの基礎に関すること	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

項目と項目を関連付ける際のポイント

- ・〈基本的な人との信頼関係を育てるために〉(心)(1)(2)と(人)(1)とを関連付けて設定した具体的な指導内容がアである。
- ・〈絵カードを活用するために〉(環)(2)(5)と(コ)(1)(4)とを関連付けて設定した具体的な指導内容がイである。
- ・〈要求場面でタイミングよく適切に絵カードを使うために〉(心)(1)(2)と(人)(1)と(コ)(1)(4)とを関連付けて設定した具体的な指導内容がウである。

具体的な指導内容の設定	ア. 好きな手遊びやふれあい遊びを通して教師とやりとりする	イ. 具体物と絵カードのマッチングをする	ウ. 絵カードの使い方が分かり、要求場面で絵カードを選んで渡す
-------------	-------------------------------	----------------------	---------------------------------

「自立活動編」の第7章「自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い」には、具体的な指導内容を設定する際の配慮点が書かれています。次の点に配慮しながら考えていきましょう。

- ・「やってみたい」「できた」と思える。
- ・得意な面、発達が進んでいる面を生かす。
- ・自分で環境を整えたり、支援を求めたりする。
- ・自分で選んだり、決めたりする。
- ・何のために学ぶのかが分かる。

自立活動として指導したことが実生活の中で使えるようになり、生活が改善されるという視点も忘れないようにすることが大切です。



(5) 指導場面の選定

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

具体的な指導内容を、どの場面でどのような方法で指導するのかを考えてみましょう。各教科等の指導を行う場合にも、その子の困難に配慮することが必要です。自立活動で設定している目標や具体的な指導内容との関連付けをしましょう。
 教員間で指導の方法等を共通理解しながら進めていきましょう。



授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導、各教科等の指導に関連付けた指導の場面、各教科等を合わせた指導の場面・・・どこで指導するといいいかな？

設定 指導 具 体的 内 容 の	ア. 好きな手遊びやふれあい遊びを通して教師とやりとりする	イ. 具体物と絵カードのマッチングをする	ウ. 絵カードの使い方が分かり、要求場面で絵カードを選んで渡す
------------------------------------	-------------------------------	----------------------	---------------------------------



指導 場 面 の 選 定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の時間 ・ 音楽の始まりの手遊び歌の場面 ・ 昼休みの遊びの場面 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の時間 ・ 算数の弁別や分類の学習の場面 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の時間 ・ 日常生活の場面 ・ 生活単元学習の時間に欲しい道具や材料を要求する場面 ・ ・
-----------------------------	---	--	---



一つの指導内容が一つの場面でしか指導できないということはないですよ。指導内容をどこで取り入れることができるか、各教科の指導や各教科等を合わせた指導等の授業を見直してみましょう。自立活動の目標や具体的な指導内容を絶えず意識しておくことで、いろいろな場面で指導が可能になります。また、指導が継続されることで、目標や具体的な指導内容を修正しながら、より良い指導へつなげていくこともできますよ。

本当ですね。手遊びは音楽の時間、絵カードは自立活動の時間にしかできないと思っていました。学校生活全体で指導することの意味が分かりました。自立活動の目標や具体的な指導内容をきちんと意識しておくことが丁寧な指導につながるのですね。A児に関わる複数の教員で共通理解していきたいと思います。



5 自立活動の評価について

自立活動の評価は、どうすればいいのかしら？
記録は、残しているんだけど・・・？

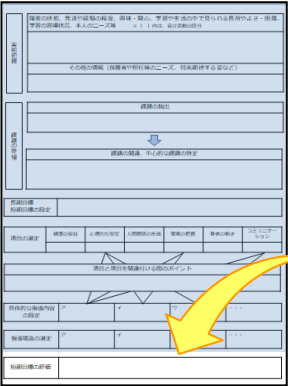


目標の達成のために必要な、具体的な指導内容をいくつか設定していると思います。

- ① 具体的な指導内容を指導してどうであったか、一定期間記録をとり整理しましょう。その記録が、短期目標を評価するための材料となります。
- ② 設定した全ての具体的な指導内容の評価を総合して、短期目標の評価をしていきます。

短期目標を評価をするときには、まず、目標がどの程度達成されたか評価しましょう。次に、目標が適切であったか、具体的な指導内容が適切であったか、指導方法は適切であったかについて整理し、指導の成果と課題、改善点を考えていきます。

短期目標 教師の促しがある場面で、担任に、絵カードや身振り等で自分が欲しいものやしてほしいことの要求を伝えることができる。



※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

	成果と課題	改善点
短期目標の評価	<p>好きな手遊び等に取り組んできたことで、教師と基本的な信頼関係ができ、自立活動の時間における指導の場面では、2枚のカードの中から欲しいおもちゃや絵本、好きな手遊びのカードを選んで教師に渡し、伝えることができるようになってきた。</p> <p>各教科等の指導や各教科等を合わせた指導場面では、選択肢が興味のないものであると、その中から選ぶことは難しかった。友達が選んだものが気に入った。</p>	<p>教材を選定するときにはA児の興味のあるものを活用することで、選択できるようにし、友達のものへの関心を少なくすることができるのではないかと。</p> <p>設定された場面での選択肢を増やすようにする。</p>

自立活動の指導は、実態を的確に把握した上で個別の指導計画を作成して行いますが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しです。子供にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものです。子供の学習状況や指導の結果に基づいて、計画は適宜修正を図る必要があるということです。

また、評価は子供の学習に対する評価であるとともに、教師の指導に対する評価でもあります。指導を継続している間、「目標の達成に近づいているか」「教材・教具に興味をもって取り組んでいるか」等、絶えず学習状況の評価し、日頃から指導の改善に取り組めるといいですね。



自立活動の指導に取り組んだことで、A児は、欲しいものがあると絵カードで教師に伝えることが増えてきました。そのため、自傷行為や混乱して泣くこと等が少なくなってきました。もっと確実に伝えられるように指導を継続したいと思います。

A児に関わる複数の教員で話し合いながら、評価の妥当性を高めていくことも必要ですね。